小学校教師の体育授業観形成に学習指導要領改訂が与える影響

室井　七美（宇都宮大学）

１．目的

本研究では、小学校教師の体育授業観の形成に学習指導要領改訂が与える影響を明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

１）対象者は職歴区分が中堅期（5～14 年）以降で、①国立大学附属小学校に勤務している、または勤務経験がある教師、②大学等研究機関に内地留学の経験がある教師、③現職中に大学院に在籍、または在籍していた教師、のいずれかに当てはまる小学校教師９名である。

２）データ収集は半構造化インタビューを用い音声データを逐語録化したものをデータとした。インタビュー時間は一人あたり約 26 分間であった。

３）分析方法は SCAT（大谷，2008）を用いて、ストーリー・ライン、理論記述を作成した。

３．結果と考察

１）後押しタイプ（図 1）の特徴は、教師の授業観が新学習指導要領の内容とマッチングすることで、授業観が新学習指導要領によって肯定され､強化、確立することである。つまり、学習指導要領が授業観を後押しするかたちで授業観形成に影響を与えている。また、このタイプでは〈すぐれた人物との出会い〉という授業観形成の要因が重要であり、後押しタイプに該当する教師がすぐれた人物から受けた影響の中に、新学習指導要領の内容と近い考え方が先駆的に含まれていたと考えられる。

２）取り入れタイプ（図 2）に属する教師は、新学習指導要領に記される内容を、受動的に自らの授業観に取り入れているという特徴がある。具体的には､「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」のような文言から影響を受け、授業観に取り入れている例が挙げられる。つまり、学習指導要領が教師の授業観に取り入れられるかたちで影響を与えている。

３）葛藤タイプ（図 3）に属する教師の授業観は、新学習指導要領を通してこれからの教育ついて考える中で、揺らいでいる状況にある。つまり、授業観形成において今までの授業観を揺るがし、葛藤を引き起こす要因として、学習指導要領が影響を与えている。また、葛藤が解消され、学習指導要領を踏まえた授業観が新たに形成されたとき、葛藤タイプは、取り入れタイプに移行するのではないかと考えられる。

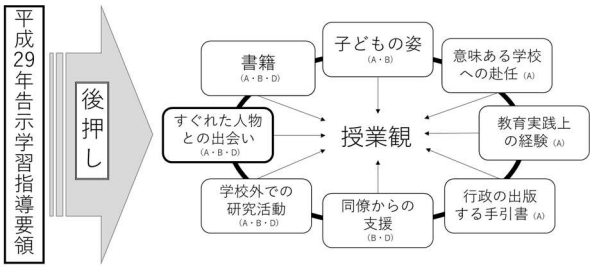

図１　後押しタイプの授業観形成の構造

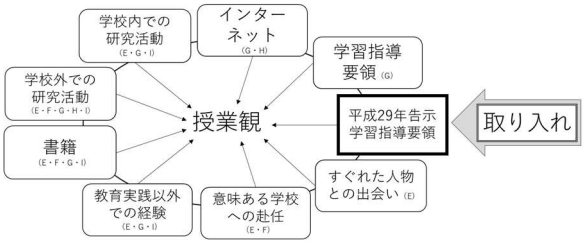

図２　取り入れタイプの授業観形成の構造

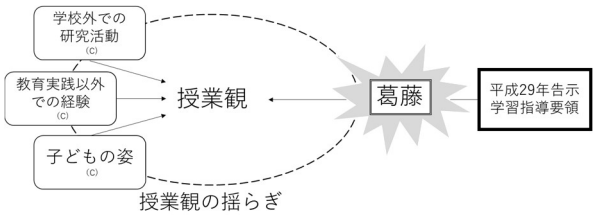

図３　葛藤タイプの授業観形成の構造

４．結論

学習指導要領も授業観形成の主要な要因であり、学習指導要領の授業観形成への影響の与え方については、3 つのタイプがあることが明らかになった。また、このタイプについては、授業観同様、変容し得るものであると考えられる。